

鳥取看護大学



鳥取短期大学

グローバルセンターだより

Glocal Center


「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」ボランティア活動

10月19日（土）～22日（火）に県内各地で開催された「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」に、鳥取看護大学・鳥取短期大学の学生・教職員がボランティアとして参加しました。

10月20日（日）には、鳥取看護大学の学生3名が温泉同好会のサークル活動の一環として、三朝会場（町営三朝陸上競技場）で開催された「パタンク交流大会」で、三朝町観光交流課の職員の方々と一緒に、三朝温泉の足湯ブースを運営。全国から集まった参加者を温かい足湯と笑顔でおもてなしました。

同日、倉吉会場（本学シグナスホール体育館）では「バウンスボール交流大会」が行われ、鳥取看護大学・鳥取短期大学の学生と教職員計12名が鳥取県バウンスボール協会の方々と一緒に、選手の誘導や試合のスコア記録などを行い、大会がスムーズに進むようサポートしました。また、同会場アリーナでは、鳥取看護大学の「まちの保健室」が開設され、測定の補助も務めました。

学生たちは、スポーツなどを介してさまざまな世代の方と交流し、おもてなしの心やコミュニケーションの大切さを学ぶことができました。



「湯梨浜ふれあい福祉まつり」にToCoToN FASTと

鳥大防災Lab.が共同参加しました！



10月19日（土）、湯梨浜町ハワイアロハホールにおいて開催された「湯梨浜ふれあい福祉まつり」において、鳥取看護大学・鳥取短期大学消防防災サークルToCoToN FASTと鳥取大学防災サークル鳥大防災Lab.の学生が共同で、湯梨浜町防災課・湯梨浜町羽合赤十字奉仕団による防災教室のスタッフとして参加しました。

これは、9月4日（水）に「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」を両サークルの学生が視察し、学生間交流が深まったことがきっかけとなり実現したものです。防災教室では、災害時に身近にあるものを活用して身を守る「新聞紙で作る防災スリッパづくり」を担当し、小さな子どもから年配の方

まで多くの方々にご参加いただきました。普段は単独でのサークル活動が多い学生たちにとって、さまざまな人と一緒に防災教室の活動ができたことで、多くの気づきを得る貴重な経験となりました。今後も引き続き、共同での活動の幅を広げていきます。

とっとりプラットフォーム5+αの取組み



とっとりプラットフォーム5+αでは、鳥取県立美術館を学びのフィールドとして活用する取組みを行っています。

11月21日（木）、鳥取短期大学 生活学科 住居・デザイン専攻の「造形基礎Ⅰ」の特別講師として、地域イノベーション企業の株式会社1004代表取締役 横田侑氏をお招きしました。「何でもやってみる“チャレンジ精神”と自分で決めたことを続ける“忍耐力”を持ってほしい！」という横田氏のメッセージに、学生たちは熱心に耳を傾けていました。

翌22日（金）には、鳥取短期大学、鳥取大学、公立鳥取環境大学の学生と教職員あわせて14名が、大型アートイベント「森の芸術祭 晴れの国・岡山」に参加し、奈義町現代美術館や津山城など12か所の展示会場を巡りました。



～地域で活動 地域で対話～

◆みささ町かがやく子どもフェスティバル

12月15日(日)、三朝町総合文化ホールにて「みささ町かがやく子どもフェスティバル」(三朝町教育委員会 社会教育課主催)が開催され、鳥取短期大学の学生がステージイベントと体験ブースに参加しました。

絵本の読み聞かせ(幼児教育保育学科 落合研究室)、英語絵本の読み聞かせ(地域コミュニケーション学科)：身ぶり手ぶりや手遊び、歌を交えた読み聞かせで、子どもたちを絵本の世界に誘いました。

オペレッタ「アラジンと魔法のランプ」(幼児教育保育学科 津上研究室)：アラジンをはじめとした個性豊かな音楽劇を披露し、会場いっぱいに子どもたちの笑い声が広がりました。終演後も、衣装のまま館内の子どもたちとふれあう学生たちの姿が印象的でした。

アコースティックライブ(軽音楽部ハムスターズ)：カバー曲2曲を披露し、透きとおった歌声とアコースティックギターの音色に歓声があがりました。

図書館司書体験(図書館倶楽部)：町立みささ図書館の職員のみなさんと一緒に、貸出・返却作業や選書、本探し、ポップ作成などのお仕事を体験してもらうブースを出展しました。

カラフルいくらを作ってみよう♪(グルメラボサークル)：アルギン酸ナトリウムと乳酸カルシウムを使ったカラフルいくら作りに挑戦!実施した3回ともすべて満席の大盛況で、子どもたちは思い思いに色とりどりのいくらを作りました。



◆第2回みささ魅力発見バスツアー～三徳山山護運動体験～

11月17日(日)、「第2回みささ魅力発見バスツアー～三徳山山護運動体験～」(三朝町教育委員会 社会教育課主催)に、鳥取看護大学・鳥取短期大学の学生と職員合わせて14名が参加しました。山護(やまもり)運動とは、三徳山の行者道(登山道)を補修する活動で、参加者は土を詰めた麻袋を手分けして運び、荒れた行者道を修復しました。その後、国宝投入堂にも参拝しました。

今回の体験をとおして歴史的建造物を守り継承していくことの重要性や自然との共生について学びを深めました。

◆くらし国際交流フェスティバル2024

11月10日(日)、伯耆しあわせの郷において、「くらし国際交流フェスティバル2024」が開催され、鳥取看護大学および鳥取短期大学の学生・教職員がスタッフとして参加しました。各ブースでは、世界の文化やゲームなどの体験や、関連団体の活動紹介、毎年大好評の食べ物販売などが行われました。

地域コミュニケーション学科は、授業「異文化交流」および「共生のためのプロジェクト演習A」の一環として英語絵本の読み聞かせ、カルタやぬりえ体験のブースを出展し、学生たちは、来場した子どもたちと楽しそうに接していました。生活学科食物栄養専攻は、地元企業から提供いただいたおからを使った手作りブラウニーを販売し、購入者から大好評でした。



◆地域からのステージ依頼がたくさん!

本学では地域もキャンパスととらえて積極的に地域に出向き、特別研究をはじめとした学びの発表や地域の方々と交流する機会を設けています。

地域コミュニケーション学科では、授業の一環で英語絵本の読み聞かせに取り組んでいます。ゆりはま子育て応援フェスタ、くらし国際交流フェスティバル2024をはじめとする地域のイベントでは、物語の意味や雰囲気伝えるために工夫を凝らし、英語絵本の読み聞かせを披露しました。

幼児教育保育学科では、オペレッタ「アラジンと魔法のランプ」を大正保育園、向山保育園、西倉吉保育園、鳥取県立皆成学園等で公演し、子どもたちに大人気でした。また「魔法の音楽会」ではカホンやマリンバ、トーンチャイムを使った演奏や、サクスの美しい音色が魅力的な「名探偵コナン」のテーマ曲を披露し、ステージがとても盛り上がりしました。

今後も地域の方々に喜んでいただける機会にどんどんチャレンジしていきます!

海外とのつながり

昨年、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたことで、海外研修や国際交流が再開し、学生たちは実際に異文化圏を訪問できるようになりました。机上では気付けない新たな学びや体験を通して、グローバルな視点を持ち、さらなる成長を期待しています！

◆韓国江原道学生交流

鳥取県では、令和6年度に韓国・江原道との友好交流30周年記念事業の一環として、ウォーキングを通じた青少年交流事業が実施され、鳥取看護大学・鳥取短期大学からは学生6名がこの事業に参加しました。10月25日（金）～27日（日）、本学の学生と高校生たちが韓国原州市を訪れ、両地域の学生たちは、翻訳アプリを使いながら互いにコミュニケーションを図り、歓迎レセプション、第30回原州国際ソーデウォーク、市内研修を通じてさらに交流を深めました。

参加した学生たちからは、「話す言語は異なるが、何事も伝えようとする気持ちが大事であり、言葉が通じなくても交流できると学んだ」「この体験で得た知識や経験をもとにして、さらに外国の方とのコミュニケーションを図り、国際交流の実践に励みたい」などの感想が聞かれました。



◆English Café

10月29日（火）のEnglish Caféでは、ハロウィンに因んでかぼちゃのランタン「Jack-o'-Lantern」を作りました。はじめに、ハロウィンの起源や楽しみ方について英語で説明を聞き、その後本物のかぼちゃでランタン作りに挑戦！学生たちはなれない作業に悪戦苦闘しながら、個性豊かな表情のランタンを製作しました。最後に明かりを消した教室で、完成したランタンにキャンドルを灯し、一足早くハロウィンの雰囲気を楽しみました。



1月23日（木）には鳥取看護大学にて、第4回English Caféを開催しました。健康や病気をテーマに、地域コミュニケーション学科のレヴィレイモンド先生と一緒に病院での英会話に挑戦！学生たちは、医療用語の英単語を学んだ後に、英語で看護師役と患者役のロールプレイングを行いました。

English Caféをとおしてこれからも、楽しみながら英会話を学べる機会をどんどん提供していきます！

◆国際交流活動報告会

11月22日（金）、鳥取看護大学国際交流委員会主催で国際交流活動報告会を実施しました。今回は看護大の学生による発表を行いました。

1. 令和5年度中国吉林省青少年交流事業の報告 2. 海外研修（台湾）に参加して
2つの発表は、中国および台湾の生活習慣や食文化、歴史文化施設の紹介など、行ってみたくなるようなとても興味深い内容でした。今後も、国際交流をとおして多くの体験をしてほしいと願っています。



◆JICA講演会

10月12日（土）、シグナス祭の企画の1つとしてJICA海外協力隊セミナーを開催し、隊員として活動された2名の講師をお招きし、現地で経験について講演していただきました。ザンビアで学校を設立された堀田哲也さんは、設立の経緯や大変だったこと、子どもたちがとても喜んで勉強している様子などを中心に講演されました。タイで作業療法士として活動された藤田恵子さんは、現地の方々と一緒に活動することで多くの学びや人の温かさを体験できたと話されました。

学生が自分の可能性ややりたいことを大事にし、海外で活動することが1つの選択肢になればと感じるひとときでした。

◆Christmas in Europe ～ ヨーロッパのクリスマスを楽しもう ～

12月5日（木）、A館1階とりたんホールにて「Christmas in Europe ～ ヨーロッパのクリスマスを楽しもう ～」を開催しました。幼児教育保育学科 津上崇准教授をはじめとする演奏家の皆さんによるクリスマスコンサートでは、「きよこの夜」「ジングル・ベル」などおなじみのクリスマスの歌だけでなく、歌劇「椿姫」より「乾杯の歌（オペラ曲）」なども披露され、会場には美しい歌声と楽器の音色が響きわたりました。曲の合間には、フランス、オランダ、ドイツのクリスマスの過ごし方や伝統についてのエピソードを、きらびやかなイルミネーションの写真とともに紹介され、学生たちは興味深そうに話を聞いていました。

コンサートの後には、本学シグナスキッチンより提供された軽食やスイーツを食べながら、少し早いクリスマスを楽しみました。





大学の見学に来られました

9月12日(木)、倉吉商工会議所女性会14名のみなさまが鳥取看護大学の見学に来られました。実習室や付属図書館などの施設を見学された後、茅野友宣准教授による講話を聴講し、十分な睡眠や適度な運動、バランスの取れた食事が重要であることを学習されました。さらに鳥取短期大学絃美術館では、倉吉絃の説明を聞いたり展示品の鑑賞等を行い、昼食は学生食堂シグナスキッチンで新メニューの「スマートミール」を味わっていただきました。

グローバルセンターでは町内会やグループなどでの大学見学会の申し込みを受け付けています。施設の見学だけでなく、ミニ講話や昼食などの企画にも対応します。ご遠慮なくご相談ください。

ゆうゆう健康館けたか(鳥取市)で「まちの保健室」を開催



1月16日(木)、鳥取市気高町の「ゆうゆう健康館けたか」において、コミュニティ型「まちの保健室」を実施し、地域のみなさま16名の笑顔に迎えられての開催となりました。大学教員3名、まめんなかえ師範5名が協力して、血圧、身長、体重、体脂肪、骨密度、血管年齢の測定と健康相談を行いました。「ミニ講話」は、「知っておきたい糖尿病と認知症の危険な関係」というテーマで河本司真子助手が行いました。雪の時期でもあり空模様が気がかりでしたが、暖かな陽射しと澄み切った青空に恵まれての開催でした。地域コミュニティの結びつきが健康づくりの土台となることを実感できた「まちの保健室」でした。



「まめんなかえ師範塾」の開催

鳥取看護大学では、令和6年9月から11月にかけて、2年ぶりに「まめんなかえ師範塾」を開催しました。この師範塾は、鳥取看護大学の教職員や学生と一緒に「まちの保健室」を通じて地域の健康づくりを推進する「まめんなかえ師範」を育成するためのプログラムです。3日間にわたり、「まちの保健室」の基礎知識の学習、さらに公民館などで開催している「まちの保健室」に参加して地域との関わり方を学び、最終日にはグループワークを通じて学びを深めました。今年度は、9名のまめんなかえ師範生が誕生しました。

ホームカミングデー(看護大・短大同窓会)

“卒業生が母校に帰る日”として年に1回、ホームカミングデー(同窓会)を開催しています。鳥取看護大学同窓会のふたば会は、令和6年10月12日(土)にcafeSOURCE MID(倉吉市上井町)にて開催しました。久しぶりの再会を果たした同窓生や教職員と近況を報告しあい、余興などで楽しい時間を過ごしました。

また、鳥取短期大学同窓会の白鳥会は同日、本学のシグナスキッチン(学生食堂)を会場に開催しました。新型コロナウイルス感染症の流行で5年ぶりの開催となり、級友や恩師との会話がはずみ、世代を越えた卒業生同士の交流も生まれていました。



令和7年度 鳥取短期大学絃研究室研究生を募集します

【内 容】

倉吉の伝統工芸である倉吉絃を1年間学びます。機(はた)の構造・名称、糸の扱い方の説明から始まり、最終的に緯絃(よこがすり)の着尺を修了作品として織り上げます。また、デザインの特徴や歴史等、絃について幅広く身につけるための講義や、広瀬絃・日本伝統工芸展・倉吉博物館等への学外見学も実施します。

【講 師】 吉田 公之介(鳥取短期大学絃美術館 館長)

【講習期間】 令和7年4月～令和8年3月

【開 講 日】 毎週火・木曜日 9:30～16:30

【定 員】 10名程度(男女年齢不問・定員になり次第締切ります)

【募集期間】 令和7年3月31日(月) ※必着

詳しくは鳥取短期大学ホームページをご確認ください。

https://www.cygnus.ac.jp/college_news/index.php?view=15764



令和6年度絃研究室修了生の作品展を開催します

絃研究室修了生が一年かけて織り上げた絃作品を展示しています。研究生のみなさんの成果を是非ご覧ください。

【期 間】 令和7年3月28日(金)～3月30日(日) 9:00～17:00

【入館料】 無料(修了作品展以外の常設展示も観覧する場合は、別途倉吉博物館入館料が必要です。)

【会 場】 倉吉博物館 展示室4 (倉吉市仲ノ町3445-8)

【展示品】 着物、袋物、テーブルセンターなど

◀発行▶ 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854
TEL: 0858-27-0107 FAX: 0858-26-9138 E-mail: glocal@cygnus.ac.jp

◀印刷▶ 鳥取県農協印刷